

化城喻品七箇の大事

第一 化城の事

御義口伝に云はく、化とは色法しきほうなり、城とは心法しんぼうなり。此の色心二法を無常と説くは権教の心なり。法華經の意こころは無常を常住と説くなり。化城即宝処なり。所詮今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉る者は、色心を妙法と開くを化城即宝処と云ふなり。十界皆化城、十界各々宝処なり。化城は九界なり、宝処は仏界なり。化城を去って宝処に至ると云ふは五百由旬ゆじゆんの間なり。此の五百由旬とは見思・塵沙・無明なり。此の煩惱の五百由旬を妙法の五字と開くを化城即宝処と云ふなり。化城即宝処とは即の一字は南無妙法蓮華經なり。念々の化城念々の宝処なり。我等が色心の二法を無常と説くは権教なり、常住と説くは法華經なり。無常と執する執情を滅するを即滅化城と云ふなり。化城は皮肉、宝処は骨なり。色心の二法を妙法と開覚するを化城即宝処の実体と云ふなり。実体とは無常むじょうじょうじゅう・常住くじそうそく・俱時相即ずいせんふへん・隨緣不變いちねんじやくしやう・一念寂照むぎわっしんなり。一念とは南無妙法蓮華經無礙日信の一念なり。即の一字に心を留めて之を思ふべし云云。

第二 大通智勝仏の事

御義口伝に云はく、大通は心王しんのうなり。智勝は心数しんじゆなり。大通は迹門、智勝は本門なり。大通智勝は我等が一身なり。今日蓮等の類南無妙法蓮華經と唱へ奉る者は大通なり。題目を唱ふるは智勝なり。法華經の行者の智は權宗ごんしゅうの大智よりも百千万倍勝れたる処を智勝と心得べきなり。大は色法、通は心法なり。我等が生死を大通と云ふなり。此の生死の身心に振る舞ふ起念を智勝とは云ふなり。爰を以て之を思ふに、南無妙法蓮華經と唱へ奉る行者は大通智勝仏なり。十六王子とは我等が心数なり云云。

第三 諸母涕泣の事

御義口伝に云はく、諸母とは諸は十六人の母と云ふ事なり。実義には母とは元品の無明なり。此の無明より起わくしやうこる惑障を諸母とも云ふなり。流る転てんの時は無明の母とつれて出で、還滅げんめつの時は無明の母を殺すなり。無明の母とは念仏・禅・真言等の人々なり。而に隨送ずいそうし之とは謗人を指すなり。然りと雖も終に法華經の広宣流布顯はれて、天下一同に法華經の行者と成るべきなり。隨至道場ずいしどうじやうげんよくしんごん還欲親近是なり。

第四 其祖轉輪聖王の事

御義口伝に云はく、本地身の仏とは此の文を習ふなり。祖とは法界の異名なり。此は

方便品の相性体の三如是を祖と云ふなり。此の三如是より外ほかに転輪聖王之無きなり。転輪とは生しょうじゅう いめつ住異滅なり、聖王とは心法なり。此の三如是は三世の諸仏の父母なり。今日蓮等の類南無妙法蓮華経と唱へ奉る者は、三世の諸仏の父母にして其祖転輪聖王なり。金・銀・銅・鉄とは、金は生、銀は白骨にして死なり。銅は老相、鉄は病なり。此即ち開示悟入の四仏知見なり。三世常じょうごう恒に生死生死とめぐるを転輪聖王と云ふなり。此の転輪聖王の出現の時の輪宝りんぼうとは、我等が吐く所の言語音声なり。此の音声の輪宝とは南無妙法蓮華経なり。爰を以て平等大慧びやうどうだいえとは云ふなり。

第五 十六王子の事じゅうろくおうじ

御義口伝に云はく、十とは十界なり、六とは六根なり、王とは心王なり、子とは心数なり。此即ち実相の一理の大通だいっとうの子なり。今日蓮等の類南無妙法蓮華経と唱へ奉る者は十六王子なり。八方作仏とは我等が八苦ぼんのうそく ぼだいの煩惱即菩提と開くなり云云。

第六 即滅化城の事そくめつ け じょう

御義口伝に云はく、我等が滅する当体は化城なり。此の滅を滅と見れば化城なり。不滅に じつ ぶめつ どもの滅と知見するを宝処とは云ふなり。是を寿量品にしては而実不滅度とは説くなり。滅と云ふ見を滅するを滅と云ふなり。三権即一実の法門之を思ふべし。或は即滅化城とは謗法の寺塔を滅する事なり。今日蓮等の類南無妙法蓮華経と唱へ奉る者は化城

御義口伝に云はく、皆とは十界なり、共とは如我等無異にょ が とう む いなり、至とは極果の住処なり、宝処とは靈山なり。日蓮等の類南無妙法蓮華経と唱へ奉る者は一同に皆共至宝処なり。共の一字は日蓮に共する時は宝処に至るべし、不共ならば阿鼻大城あ び だいじょう おに墮つべし云云。

第七 皆共至宝処の事かい ぐ じ ぼうじょ

御義口伝に云はく、皆とは十界なり、共とは如我等無異にょ が とう む いなり、至とは極果の住処なり、宝処とは靈山なり、日蓮等の類南無妙法蓮華経と唱へ奉る者は一同に皆共至宝処なり。共の一字は日蓮に共する時は宝処に至るべし、不共ならば阿鼻大城あ び だいじょう おに墮つべし云云。